

# DONALD KEENE AND THE PACIFIC WAR

## 太平洋戦争とドナルド・キーン

戦死した日本兵の日記に感動、日本文学研究者への原点



ドナルド・キーン・センター 柏崎  
DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI

ドナルド・キーン・センター 柏崎 2015年度特別企画展



アッツ島攻撃後にエイタック島で戦友と一緒に撮った写真(後列右、オーティス・ケリー中将)(後列左、右手にカービン銃、左手で研究社の和英大辞典を抱えているキーン中将)

もし1941年に、日本とアメリカとの間に戦争が起っていないとしたら、私が自分の一生を、日本研究という仕事に捧げたとは思えない。

ドナルド・キーン著 金関寿夫訳『このひとすじにつながりて』より

私はこの戦争が与えてくれた一つの贈り物、すなわち日本語の知識を捨ててしまうことはすまいと心に決めた。

ドナルド・キーン著 金関寿夫訳『このひとすじにつながりて』より



日本兵捕虜に訊問するドナルド・キーン(沖縄戦)

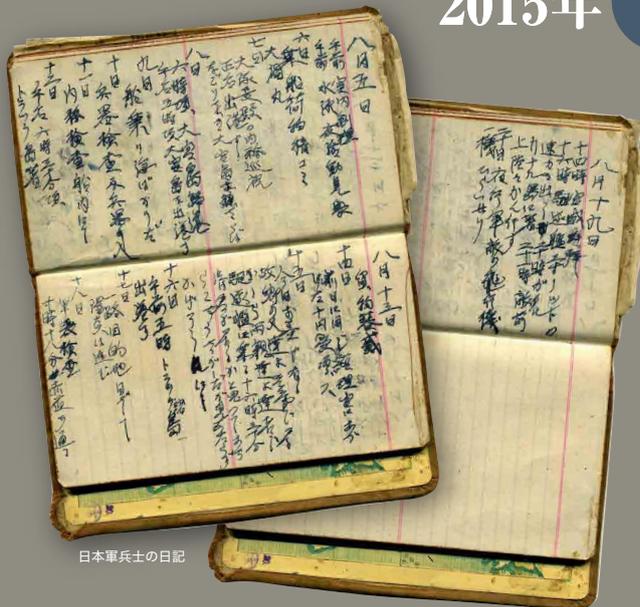


日本軍兵士の日記(表紙)

2015年 3月10日 [火]

(平成27年)

2015年 9月27日 [日]



日本軍兵士の日記

主催：公益財団法人ブルボン吉田記念財団

後援：新潟県、新潟県教育委員会、柏崎市  
柏崎市教育委員会、読売新聞東京本社  
新潟日報社、BSN新潟放送  
N S T、TeNYテレビ新潟  
UX新潟テレビ21、エフエムラジオ新潟  
柏崎日報社、柏新時報社  
柏崎コミュニティ放送(FMピッカラ)

協力：株式会社ブルボン

## H グアム島

[1945年8月～同年9月]

### 玉音放送を聞き、終戦を知る

8月初旬、沖縄からハワイに戻り、広島への原爆投下を知る。その翌日、グアムへ向かう。占領下の日本へ通訳官として行けるかもしれないという淡い期待を胸に。



広島への原爆投下  
写真提供：共同通信社



天皇の玉音放送を  
聴く人々

写真提供：共同通信社

## I 青島 (チンタオ) 中国

[1945年9月～同年11月]

### 日本軍の戦争犯罪者調査

この任務には堪えられないと除隊を申請。「原隊に復帰せよ」という命令書を手し、青島から上海を経由して、どうしても訪れたいと思っていた日本へ行く。



除隊申請直前に、  
母親に宛てた手紙

## J 東京

[1945年12月上旬]

### 初めての日本、初めての東京

滞在はわずか一週間。その間にしたことは、ハワイの捕虜収容所や青島で親しくなった日本人捕虜たちから託された手紙を懐に、彼等の消息を伝えて廻ることだった。



焼け野原の東京  
写真提供：毎日新聞社



GHQ総司令部  
(旧第一生命会館)  
写真提供：共同通信社

## G 沖縄

[1945年3月～同年7月中旬]

### 地獄の戦場、沖縄戦に従軍

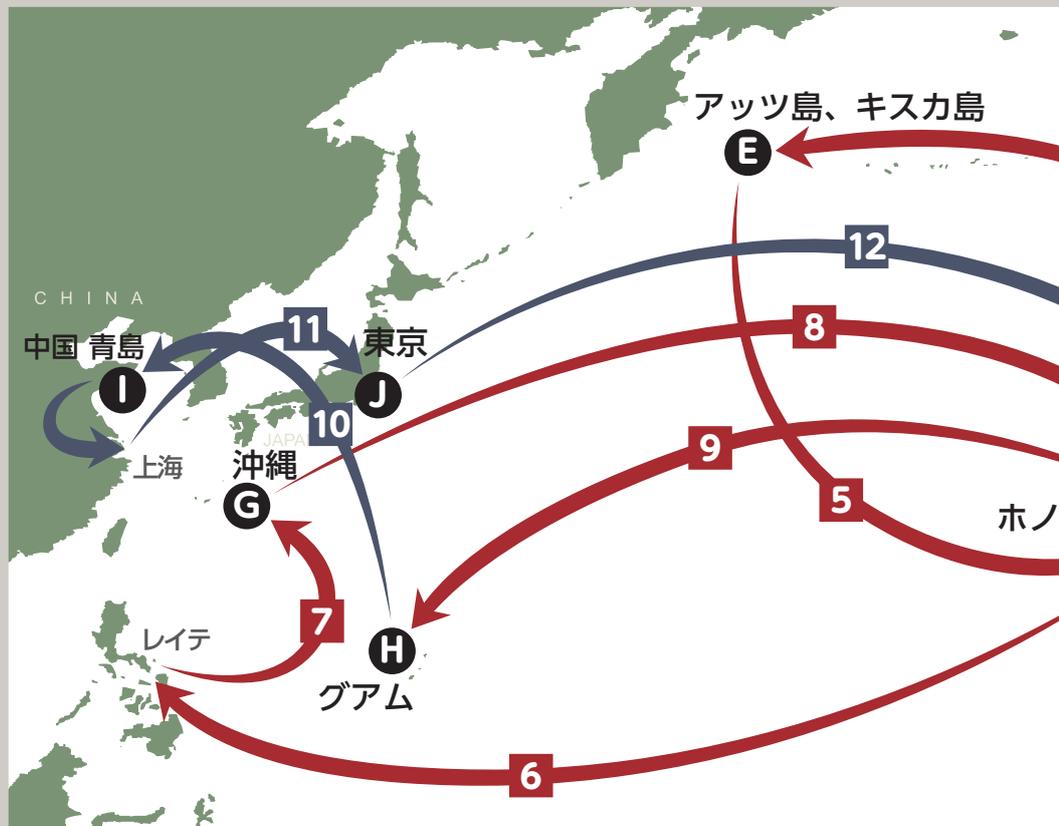
初めて二世の通訳と翻訳官からなる10人余りの語学士官の部下を持つ。その中に、ジローと呼ばれる日系二世がいた。ある日、彼は叔母の家で食事をしませんかと誘った。



火炎放射する米軍戦車  
沖縄県平和折念資料館提供



日本兵捕虜に訊問する  
ドナルド・キーン  
(沖縄戦)



## F ホノルル (ハワイ州)

[1943年9月～1945年3月]

### 戦場のエロイカ・シンフォニー

ホノルル陸海軍共同翻訳局に派遣され、日本軍関連手書き文書の翻訳や日本兵捕虜収容所で尋問にあたる。そして、ある日、レコードコンサートを開く。



ポータブル蓄音機  
レコードコンサートで使用した  
ポータブル蓄音機と同型機



「戦場のエロイカ・シンフォニー」

## E アッツ島、キスカ島 (アリューシャン列島)

[1943年5月～同年8月]

### アッツ島・キスカ島攻略作戦

情報将校はオーティス・ケリーと二人。任務は捕虜の尋問や資料の翻訳。そのアッツ島で「玉碎」した日本兵を目の当たりにする。



アッツ島攻撃後にエイダック島で  
戦友と一緒に撮った写真  
(後列右、オーティス・ケリー将校)  
(後列左、右手にカービン銃、左手で研究社の  
和英大辞典を抱えているキーン将校)



アッツ島に上陸する  
米兵たち

写真提供：共同通信社

## D パールハーバー (ハワイ州)

[1943年2月～同年4月]

### 戦死した日本兵の日記に感動

語学士官として海軍情報局へ派遣。任務は、ガダルカナル島で米軍が入手した日本軍に関する書類の翻訳。ある日、小さな黒い手帳ばかり入った木箱を見つける。それらは、戦死した日本兵の日記だった。



日本軍兵士の  
日記(表紙)



日本軍兵士の日記

読売新聞社所蔵デジタルデータより

# K ニューヨーク

[1946年1月中旬]

## 母の待つニューヨークに帰還 一つの決意

クリスマス直前にハワイに戻り、正式に除隊を申請。新たな年が明けた1月中旬、母の待つニューヨークに帰還。そして、一つの決意をする。



日本降伏に沸くニューヨーク  
1945年8月15日

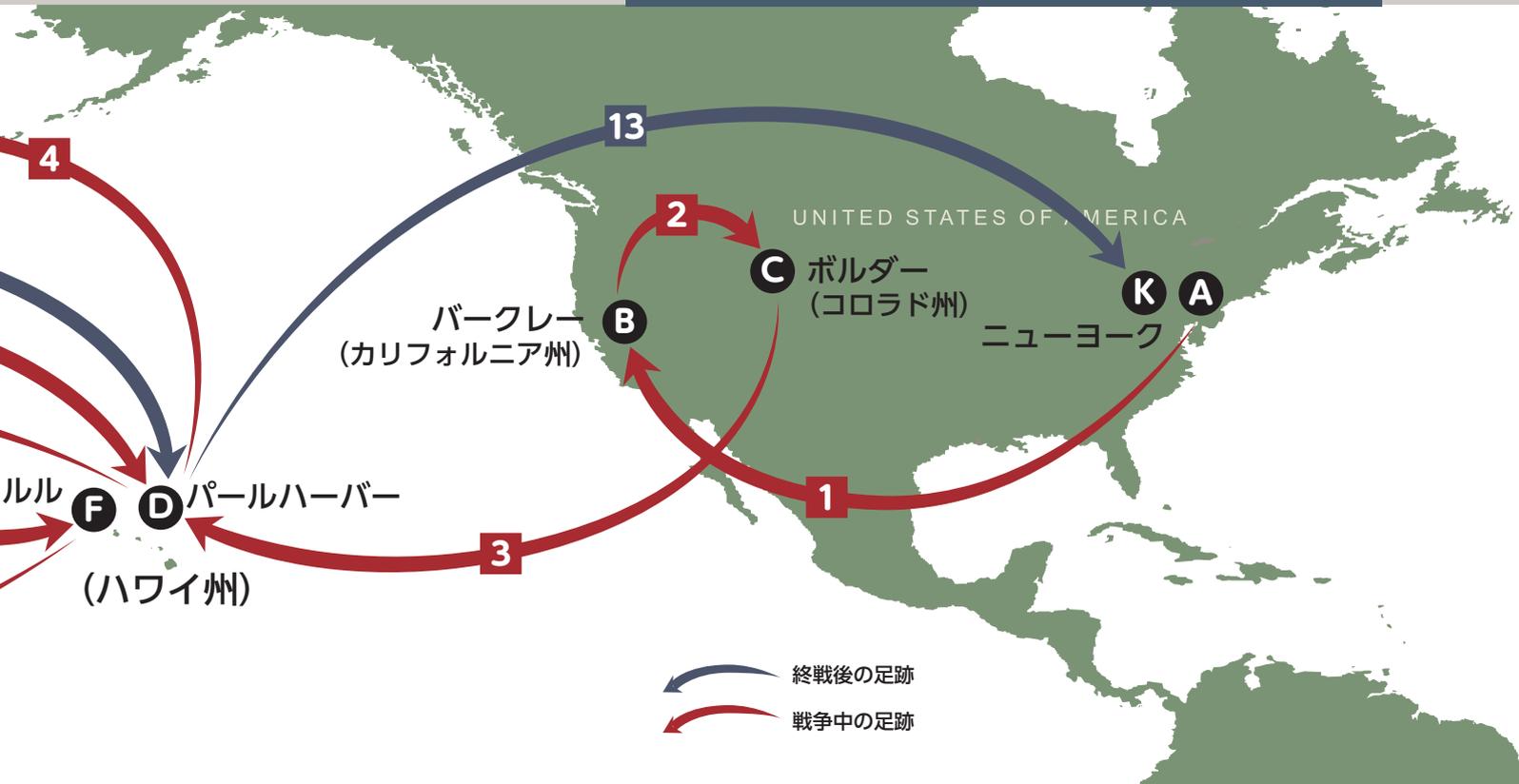
写真提供：毎日新聞社

# DONALD KEENE AND THE PACIFIC WAR

## ドナルド・キーンの太平洋戦争

一日米開戦の日（1941年12月7日アメリカ時間）から母の待つニューヨークへの帰還（1946年1月中旬）までの足跡

太平洋戦争が自らの人生を決定づけたと自伝の中で述べるドナルド・キーン。その一番大きな要因は、激戦地、ガダルカナル島で戦死した日本兵の日記を読み、戦場で綴られた日本兵の言葉に、思いに、敵味方を超えて同じ人間として感動したことでした。



# C ボルダー（コロラド州）

[1942年6月中旬～1943年1月]

米海軍日本語学校、ボルダーに移転  
カリフォルニア大学バークレー校にあった米海軍日本語学校は、ルーズヴェルト大統領令によって、内陸部のコロラド大学ボルダー校への移転を余儀なくされる。



米海軍日本語学校 卒業式  
（一番左、ドナルド・キーン）

米海軍日本語学校  
日本語を学ぶ学生たち

コロラド大学図書館米海軍日本語学校アーカイバルプロジェクトより

# B バークレー（カリフォルニア州）

[1942年2月～同年6月中旬]

## 米海軍日本語学校に入校

日米の開戦を知ったキーン青年は、日本語を学びたい一心でワシントンの海軍省に手紙を書いた。



米海軍日本語学校で学んだ  
日本語テキスト

長沼直兄著『標準日本語讀本巻一』

# A ニューヨーク

[1941年12月7日 アメリカ時間]

## 日米開戦のとき、キーン青年は？

この日、キーン青年は初めて日本語を教わった猪俣青年とマンハッタン島から少し離れたスタッテン島へ二人でハイキングに出かけていた。



太平洋戦争の開戦を報じた  
東京日日新聞  
1941年12月9日

写真提供：毎日新聞社



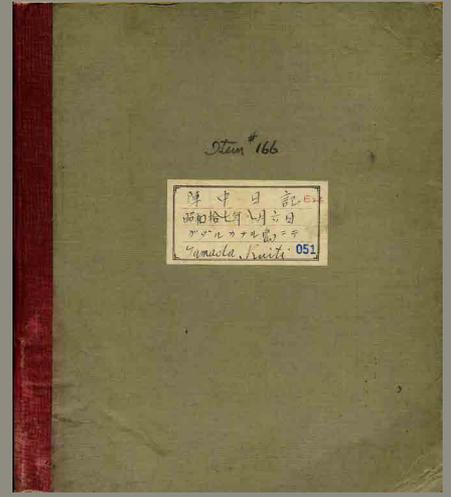
日本軍 真珠湾攻撃

写真提供：共同通信社

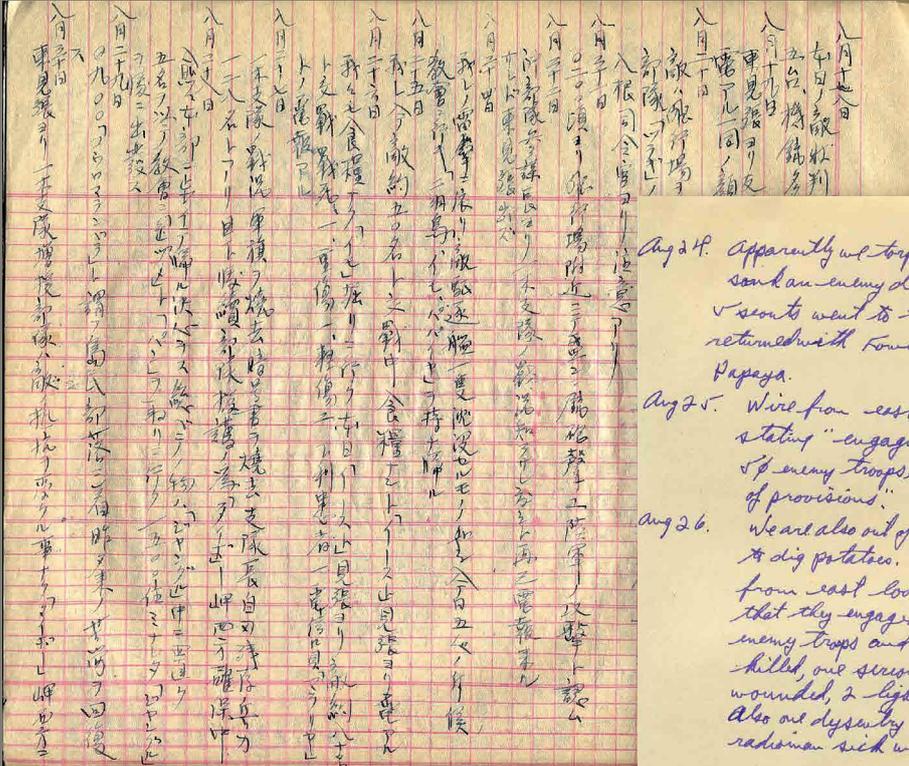
日本兵の陣中日記や手記、手紙や遺書などの翻訳文書の作成もまた、語学士官の重要な任務の一つでした。そうした任務の中で語学士官ドナルド・キーンは、激戦地、ガダルカナル島で戦死した日本兵の日記を読み、戦場で綴られた日本兵の言葉に、思いに心を揺さぶられ、深い感動に包まれていったのです。

「そのような苦難と闘っている男たちが書いた日記を読んでいて、なんらかの感動を受けないわけにはいかなかった。おそらく、どこかジャングルのタコツボ、ないしは孤絶した塹壕の中で、目前にあるのは死のみ、という状況で兵士がなぐり書きしたものであった。これらの日記を書いた兵士たちは、いわば私の、最初の日本人の親友だったのである。」

ドナルド・キーン著「このひとすじにつながりて」より抜粋



日本軍兵士の陣中日記表紙



日本軍兵士の日記

Aug 24. Apparently we trapped and sank an enemy destroyer. Today 5 scouts went to the church and returned with food, potatoes and Papaya.

Aug 25. Wire from east lookout stating "engaging about 80 enemy troops, we are out of provisions."

Aug 26. We are also out of food, want to dig potatoes. Had word from east lookout saying that they engaged about 80 enemy troops and suffered one killed, one seriously wounded, 2 lightly wounded. Also one dysentery case and one radio man sick with malaria.

Aug 27. Results of Ikk. detachments attack: they have destroyed their battle flag and code books, commanding officer has taken his own life, remaining strength 128. Holding western part of Tavo Point and awaiting relief.

Aug 28. Decided at last to attempt to return to main unit by walking, stored everything in the jungle. I then went to the church to get bread and canned goods. 150 left the now familiar jungle.

Aug 29. 0900 arrived native village by name of "Kouso maraibera" and rested.

Aug 30. Heard from east lookout that the Ikk. rebel force had landed west of Tavo Point without opposition and is combining strength.

日本軍兵士の日記英文翻訳資料

読売新聞社所蔵デジタルデータより

ドナルド・キーン・センター柏崎 2015年度特別企画展

## 太平洋戦争とドナルド・キーン 戦死した日本兵の日記に感動、日本文学研究者への原点

本展示にあたり、各所蔵者ならびに次の機関・個人の方々をはじめとする多くの方々のご協力を賜りました。記して謝意を評します。

沖縄県平和祈念資料館

「かみふらの郷土をさぐる会」事務局長 三原康敬 氏

キーンドナルド 氏

コロラド大学図書館 米海軍日本語学校アーカイバルプロジェクト

東京外国語大学教授 河路由佳 氏

白水社

読売新聞東京本社国際部長 森太 氏

早稲田大学教育学部教授 和田敦彦 氏

五十音順

### 開館時間

10時～17時（入館は16時30分まで）

### 休館日

毎週月曜日（祝日、振替休日の場合はその翌日）

12月26日～3月9日は冬季休館

### 入館料

大人500円・中高生200円・小学生100円

ドナルド・キーン・センター柏崎 公益財団法人 ブルボン吉田記念財団

新潟県柏崎市諏訪町10-17 TEL 0257-28-5755

www.donaldkeenecenter.jp/

### アクセス

JR信越本線 柏崎駅前より、

市内循環バス「かざぐるま」

東本町先回り線「中央町」

バス停下車徒歩約3分

